

北海道旅行 6.ワン、ツウ、スリー、フォー、ポプラが揺れる

旭岳から旭川市まで、緑輝く道を通り、ドライブを楽しみました。旭川の市街地に入ると暖炉があるのでしょうか、煙突のついた家々が続き、さすがに北国と感じつつ、恋の町札幌を目指して、高速道路へ入りました。



岩見沢に途中で立ち寄ることにしました。私は生後1年も経たずに横浜に移り、岩見沢の記憶はありません。父が取り壊し寸前の教会堂の姿を見せに連れて行ってくれたのが、1960年、17歳の真冬でした。会堂の前で写真を撮ってもらい、思い出の映像となりました。

現在、岩見沢教会は市の中心部に立っています。切妻の大屋根を持つ平屋の可愛い会堂でした。佐藤幹雄牧師夫妻が温かく迎えてくれました。礼拝堂は対角線を中心に置く、集会室といった感じで、機能や維持を考えての設計でしょう。「ましみず」という教会合同50周年記念誌

を頂きました。それによると1880年代に開拓伝道が始まり、1900年に教会設立、1907年会堂完成とのことです。父は1940年に神学校を卒業し、最初の任地が岩見沢でしたが、恩師が応召され、留守を預かる形で横浜へ。皇紀2600年、教団結成、太平洋戦争勃発という激動の3年を過ごしています。この間の資料が載っていないのは残念でした。長い伝道の足跡、教会の活躍を知り、感謝しながら、辞しました。



岩見沢教会礼拝堂



札幌には意外に早く到着し、憧れの北海道大学へまず行ってみました。広いキャンパスに樹木が茂り、学生たちは自転車で移動していました。新渡戸稲造のハルニシの木が北大の誇りのようです。私たちはポプラ並木を見たいということで、奥まったところまで行ってみました。ポプラは私にとって最初の本です。3歳になった頃、疎開していた五所川原で、夜間の空襲で照明弾が落ち、隣の公民館のポプラの木が赤い空に黒々と、くっきりと映ったのです。あの異様な空とポプラを忘れることはできませんが、北大のポプラ並木はその忌まわしい思い出を掻き消してくれるほど明朗に、伸びやかに、ボォーと立ち並んでいました。

やがてホテルには夫の友人雨貝牧師が、突然呼びだしたのにも関わらず、駆けつけて下さって、二人は意気が合い、話が盛り上がりました。彼は札幌のキリスト教界のために配慮し続けておられ、さまざまな苦しい現状に心を痛めておられました。素晴らしい友人がいて、良かったですね!

恋の町札幌での目的は、横浜港南台教会から、札幌の教会へ移られた2組のカップルと再会することでした。4人ともお元気な姿を見せて下さいました。それぞれのカップルのラブラブぶりを見るのは最高の喜びでした。鈴江さん夫妻お奨めのフレンチ・レストランで、デリケートで、美しい、北海道ならではの食材を用いた食事を堪能しました。鈴江さんたちはご両人とも「こだわり・本物志向」の名人。根室でなければ花咲ガニは美味しくないとメールで連絡を頂いていましたが、食べそこね、残念がられました。ミスターは教区でも重要な働きを続けておられ、ミセスは病軀をいたわりつつ、礼拝を大事にされています。加藤ご夫妻は行動派で、なんと車で交互に運転しながら、アメリカ大陸8000キロ横断。島根にお住いのご長女の家族を訪ねて、ドライブ日本縦断。たえず「ノブちゃん」と優しく呼びかけるご夫君の隣で、にこにこ顔の奥様は、長い間の祈りでご夫君を信仰へ導かれました。今は教会役員を引き受けておられます。「運転は彼に任せてくださいね」という彼女の言葉に甘え、輝く夜の札幌をドライブし、横浜は負けたかなと思いました。